

ブロッコリーの強風被害軽減には、4週間から5週間の育苗が有効

11～12月定植の育苗では、11月定植は4～5週間、12月定植は5週間の育苗期間が苗を太くし、定植後の欠株率を抑制

背景・目的

- ・種子島地域の秋～冬季に風速15m/s以上の季節風が吹き、定植後に地上部の折損や欠株の被害多発
- ・農協が2週間育苗した苗を、生産者が2次育苗するが、定植までの管理の煩雑さから早期定植となり強風被害を助長
- ・強風被害を軽減する適切な育苗期間を明らかにする。

成果の内容

- ・定植苗の胚軸径は、育苗期間が4週間以上で太くなる。
- ・定植苗の地上部乾物重は、育苗期間が長いほど重くなる。
- ・定植後の欠株率は、11月定植では4週間以上、12月定植では5週間で概ね15%程度に抑制
- ・11月定植では4週間以上、12月定植では5週間の育苗期間で、10a当りの収穫重量が1,000kg以上を確保



図2 5週間育苗した苗

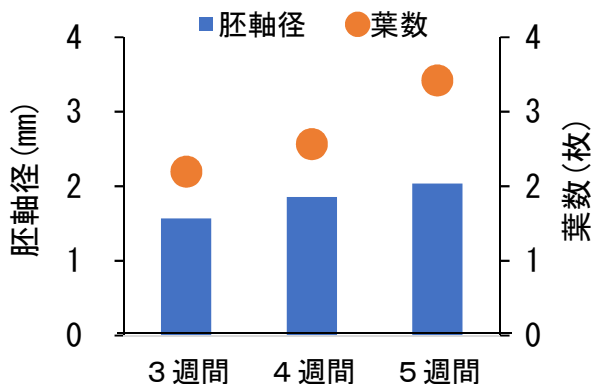


図1 ブロッコリー苗の生育

注) 令和2～3年度での11月定植の試験結果である

表1 定植後の欠株率と収穫重量

定植期	育苗期間	欠株率 (%)	収穫重量 (kg/10a)
11月定植	3週間	38.2	794
	4週間	15.8	1,065
	5週間	3.1	1,315
12月定植	3週間	76.1	249
	4週間	57.0	640
	5週間	12.9	1,110

注) 令和2～3年度での試験結果である

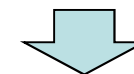
期待される効果

○収穫株が確保でき、収量が安定

11月定植の欠株状況



左: 3週間苗 右: 4週間苗



ブロッコリー収益の向上

○普及対象・範囲 県内のブロッコリー生産者

鹿児島県農業開発総合センター
熊毛支場園芸研究室